

◆聞き取り調査

【調査日】平成27年1月27日（火）

【話者】M. J

聞き手A : まず、石狩アイヌとあなたについて聞かせて貰いたいと思います。  
自己紹介をお願いします。

M. J さん : M. J、〇〇歳（50歳代後半）です

聞き手A : 石狩アイヌの歴史に関することを今回調査しているんですけど、石狩アイヌってどんな人たちか知っていますか？

M. J さん : 私、親戚はいるんですけど、石狩って小さい時に遊びに行っただけで、今は顔を見せに…お参りしに行くくらいで、その時に親戚だということがわかって、それで「ああ、やっぱり石狩にいたんだ」…ってというのがわかったんです。親戚のおじさんとおばさんが…石狩に親戚がいるんだよ…ってという話は聞いてたんですけど。

聞き手A : 石狩市ですか？石狩市にいたんですか？

M. J さん : そのおじさんは、うちの父親の弟と血のつながりは無いんですけども、弟のお嫁さんのお兄さんになるんですよ。

聞き手A : 弟のお嫁さんのお兄さん？

M. J さん : お兄さんが石狩アイヌ。

聞き手A : お父さんとお母さんは、どこ出身ですか？

M. J さん : (父が) 穂別と…母が門別、日高門別。

聞き手A : (地図を見ながら)「門別」のほうですか？

M. J さん : 父が穂別です。

聞き手A : 穂別も石狩アイヌじゃないんですか？

M. J さん : いえ違います。

聞き手A : そうですか。お父さんのご兄弟は穂別出身ですよ？

M. J さん : そうです。

聞き手A : 弟さんのお嫁さんはどこ出身ですか？

M. J さん : 白老出身ですね。

聞き手A : そのお兄さんは？

M. J さん : 石狩です、石狩アイヌですね。

聞き手A : では、弟さんのお嫁さんとお嫁さんのお兄さんって、どういう… (聞き取りながら書いた家系図を見ながら) こういうことですよ？ M. J さんのお父さんの弟さんですよ？

M. J さん : はい。

聞き手A : そのお嫁さんのお兄さんですか？

M. J さん : そうです。

聞き手A : お嫁さんは、白老出身なんですよ？

M. J さん : そうです。

聞き手A : お嫁さんのお兄さんは、石狩出身なんですか？

M. J さん : 弟のお嫁さん、いるんですよ。弟のお嫁さんの姉が石狩アイヌのおじさんと結婚したんですよ。…あ～～難しいな… (図を見ながら再確認中)。弟の妻の姉が石狩アイヌの人と結婚した。お父さんのほうを辿っていくと、元々の出身がここだから石狩アイヌですよ…

ってこと。

聞き手A : この方のお名前はわかりますか？

M. J さん : K (姓) さん。

聞き手A : K. S さん？

M. J さん : そうです。あ〜〜〜！

聞き手A : K. S さんと結婚した？

M. J さん : いえいえ、あの方のお兄さん。長男。

聞き手A : お名前は？

M. J さん : K2 (名) …じゃないし。

聞き手A : じゃ、そのK (姓) さん以外に石狩アイヌの方っていらっしやいます？

M. J さん : もう…ほかにK (姓) さんの繋がりで親戚は居るんですけど、どこに住んでいるかわからないんです。うちの父親のほうを辿っていくと、親戚…石狩アイヌにはならない。いやいや、深川の出身になるから石狩のアイヌになりますよ…ってこと。穂別ってどこですか？老眼鏡持って来てないから。

聞き手A : 鶴川の奥だから、(地図を見ながら) このへんですね。じゃあ、石狩アイヌじゃなくないですか？

M. J さん : でも、おばあちゃんが深川なんです。

聞き手A : どちらのおばあちゃんですか？

M. J さん : まず、お父さんがT3 (姓) っていうんです。T.M っていうんです。協会に入っていたんです。T3 (姓) を辿っていくと、深川に辿りつ

くんです。T3家のほうでは、深川に辿りつくのは…T3家ではなくて、おばあちゃんのほうなんです。K3（名）…っておばあちゃん。

聞き手A : おばあちゃんって、誰のおばあちゃんですか？

M. J さん : 私のおばあちゃん。

聞き手A : 母方？父方？

M. J さん : 父方のほうの…。

聞き手A : K（姓）さんでしょ？

M. J さん : そうです。T.Mさんのお母さんが深川出身のアイヌ。

聞き手A : おばあちゃんの名前は？

M. J さん : K3（名）。T.K。あの～B（名）さんの…。

聞き手A : 結婚したんでしょう？…でT（姓）さんになったんでしょう？旧姓はなんていうんですか？おばあちゃんの旦那さんは、アイヌじゃなかったの？

M. J さん : うち、おじいちゃんもおばあちゃんもアイヌです

聞き手A : おじいちゃんは？K3（名）さんの旦那さん…おじいちゃんでしょ？おじいちゃん、おばあちゃんもアイヌなんでしょ？

M. J さん : そうです。

聞き手A : おじいちゃん、おばあちゃんは深川？

M. J さん : おばあちゃんだけが深川です。おじいちゃんは穂別。

聞き手A : じゃ、おばあちゃんが深川で、…で、おばあちゃんの関係で今、何か言ってたよね？

M. J さん：あの、旭川に B（名） さんいますよね。

聞き手 A：ええ。

M. J さん：B（名） さんのお母さんと姉妹です。

聞き手 A：旭川の B（名） さんの母と姉妹？ K3（名） さん？

M. J さん：はい、姉妹です。

聞き手 A：じゃあ、B（名） さんのお母さんも深川出身？

M. J さん：深川か旭川か、よくわかんないですけど。

聞き手 A：それは、ネットか何かで調べたらわかると思う。

M. J さん：深川って、（地図を見ながら） どちらへんですか？旭川の手前…旭川どこにあるんですか？

聞き手 A：旭川、これかな？列車で行ったら滝川、深川とか旭川になっていく。

M. J さん：このへんですか？

聞き手 A：そうそう、（地図を指差しながら） 石狩川の近く。

M. J さん：へ～そうなんですか。

聞き手 A：じゃ、K3（名） さんと一緒に過ごした時間ってあるんですか？

M. J さん：私、中学 2 年生まで一緒に住んでいました。

聞き手 A：じゃあ、中学 2 年生まで深川にいらっしやっただけですか？

M. J さん：いいえ、穂別。深川から結婚して穂別へ来た。

聞き手A :なるほど。何か、K3 (名) さんの覚えているストーリーあったら、教えてください。

M. J さん :隠れてよく…T家の姉妹とか従兄弟が周りにたくさんいたんですよ。昔のコタン (集落) …っていうのが、そのまま残っていて。

聞き手A :穂別に？

M. J さん :そう穂別に。近所の人全部親戚なんですよ。…で、そこで内緒で誰にも知られないように、あのおばあちゃんたちだけでカムイノミ (「神 (カムイ)」を天に送り帰すアイヌの儀式) をしてた。

聞き手A :へ～、女の人だけで？

M. J さん :女の人だけで。

聞き手A :へ～、穂別で？

M. J さん :穂別で。

聞き手A :そうなんですね。メノコ (女性) イチャルパ (儀式) ってことかな？

M. J さん :メノコイチャルパ。

聞き手A :具体的に、どんなことしていたか？

M. J さん :いや、今みんながやっているようなことを。

聞き手A :トノト (酒) 作って回したり？

M. J さん :そうそう回したり、お祈りしたりとか。全部作って。お菓子とかお供えするものを全部作ってやったの。

聞き手A :女の人だけで？

M. J さん :女の人だけで。

聞き手A : 外でやったの？

M. J さん : 家の中で隠れてやって。…で、花畑でお供え物して。女の人だけで。

聞き手A : へ～、それ何人ぐらいでやるんですか？

M. J さん : 5～6人でやりました。

聞き手A : 入ってこないでとか言われる？

M. J さん : 私は、子どもだから…本当に小さかったから一緒に入っても何も言われなかったし、お供え物を「これは良いんだよ、食べてご先祖様に守られるから」…って言って、「ほら食べなさい食べなさい」…ってそれが楽しみで、よく行ったんだよ。

聞き手A : それは何回も、頻繁にやるんですか？

M. J さん : みんなに内緒だから頻繁っていうか、そんなに…記憶に残ってるくらいだから…結構何回もやってた。母親の実家のほうも、やってたんですよ、白老からカムイノミのできる人を呼んでやりました。

聞き手A : へ～、お母さん門別出身で。

M. J さん : 門別のほうでも、実家のほうでもやってた。

聞き手A : じゃ、いろんなところで隠れてカムイノミをしていたんですか？

M. J さん : 門別のほうは隠れてじゃなく、もう堂々とやりました。

聞き手A : 男の人は何をしていたんですか？

M. J さん : 男の人は（カムイノミを）できる人を呼んで、やってもらってたんです。毎年のようにやってたんです。

聞き手A : 中学2年生ってことは、何年ぐらいの話ですか？

M. J さん：そういうのを行うようになったのは、幼稚園ぐらいからずっと見ています。

聞き手A：1960年代のことですか？

M. J さん：そうですね。

聞き手A：隠すっていうのは、日本人…和人に隠すっていうことですか？

M. J さん：そのころに甘酒とかを造ると逮捕される。

聞き手A：あ～、酒税法か何か？

M. J さん：隠して造っていたので、柄杓っていうの？あれがあると造ってるって言われるので、柄杓も隠してた。慌てて。調べに来るので隠してた。

聞き手A：警察がですか？

M. J さん：警察しかないよね。

聞き手A：え～、そうなんですか。じゃあ、実家にもそういうアイヌのモノって…感じわかるんですか？トノト造る道具って。

M. J さん：あ、ありました。トノト造るトゥキ（杯）も全部あった。でも、お金が無くなってくるときに、それを売って食べてたんで。

聞き手A：へ～、お金が無くなると売っちゃうんですか？

M. J さん：売ってたんです。100 何個ってあったんですよ、それを少しずつ少しずつ売って生活費に昔は充ててた。

聞き手A：メノコイチャルパは、ずっと続いていたものではないんですか？

M. J さん：あ～、おばあちゃんぐらいで…私が記憶にあるのは、うちの母親が自宅とか近所でやっているのは見たことはないけども、イクパスイ



(捧酒箸) はうちの戸棚に入っていて、全然大切なものだと思わな  
いで兄と二人で決闘していたんです。そうしたら、私のおばあちや  
んに頭バッチーン！！…って叩かれて「こんな大事なもので、なに  
やってるう！！」って怒られて。

聞き手A : お兄さん、いらっしゃるんですね？

M. J さん : はい。

聞き手A : お兄さんって、おいくつですか？

M. J さん : 今、〇〇歳 (60 歳代前半) になるのかなあ。今年で。

聞き手A : 3 歳違いなんですね。弟さんとか、いらっしゃらないんですか？

M. J さん : いないです。

聞き手A : 2 人兄妹なんですね。じゃあ、M. J さんって今、何されているん  
ですか？お仕事。

M. J さん : 今、何もしていません。

聞き手A : 昔は、何をしていたんですか？お仕事は。

M. J さん : 洋服屋さんにいました。

聞き手A : 働いていたんですね。販売員、なんでやろうと思ったんですか？

M. J さん : なんてっていうか…ちょうど募集していたんで。洋服に興味あつた  
し好きだから、そういう販売員やってみたいなって思ったから。

聞き手A : 札幌でですか？

M. J さん : 札幌で。

聞き手A : M. J さんって、いつ穂別から札幌へ？

M. J さん：中学2年生の時、札幌に出てきたの。

聞き手A：それは、おばあちゃんが亡くなったからですか？

M. J さん：いえ、まだおばあちゃんは生きてました。あつ、おばあちゃんが亡くなった時、畑に丸太を積んでおばあちゃんを焼いている（火葬している）間に、同じく丸太を積んで火を一晩中、朝まで燃やしていました。火葬しているあいだ、朝まで家の畑でその丸太を組んで、その火を焚いていました。「なんでそんなことをするんだろう」…って思いながら、窓から朝まで火を絶やさないように点けていましたね。何か意味があるらしいんですけど。

聞き手A：どんな意味があるんでしょうね？

M. J さん：ねえ。

聞き手A：おばあちゃんは、アイヌ語とか喋れた？

M. J さん：たまに言ってたけど、こっちはわからないから「ばばちゃん何言ってるの？わかんない」…って言ってたの。

聞き手A：例えば、おばあちゃんくらいの年代の人とか、どうしてアイヌ語で喋っているのかって思った？

M. J さん：そう。…で、隣に入れ墨したおばあちゃんいたから、そのおばあちゃん全然日本語喋れなくてアイヌ語しか喋れなかったから、そこの娘さんと仲良かったから、よく遊びに行ってたんだけど話しかけられても全然意味はわからなかった。

聞き手A：何人かアイヌの人、いました？

M. J さん：その、T家の周りに…道路挟んで向こう側が、T家のコタンみたいな…T家の親戚しか住んでいなかった。だから、道挟んでこっち側の人アイヌじゃなくて、学校に行く途中とか帰りとかに、こんな大きい石ぶつけられたりして、こんなコブ（手で説明）できて。

聞き手A : 誰にですか？和人の子に？

M. J さん : そうそう。…で、私はそれ一回で済んだんですけど、他の…家の周りの近所の小さい子は小学生が多かったので、その子たちは毎日のように石をぶつけられていたので「どうしてそんなことするの？やめなさい！！」…と言って止めたら、学校の先生に子どもたちも話をして、そうしたら結局、私が子どもたちを連れて小学校まで送り届けて、帰りも連れて帰ってきた。その子たちは、あちこちコブだらけだった。その中にいたのがO. Y.

聞き手A : 誰ですか？

M. J さん : あの～、研究センターにいるO. Yさん

聞き手A : O. Yさんは、親戚でもなんでもないの？

M. J さん : 親戚になるんです。遠いけど親戚なるんだけど、自分はアイヌじゃないって、子どもだからわかってないの。道路のこっち側に住んだから（図を見ながら）、要するに自分はこっち側の人間だから、あっちから向こうのコタンの子たちは石ぶつけるんだって感じでぶつけてた。…で、今になって「あの時、ぶつけたよね」…って言うのと「いやあごめんなあ、オレもアイヌなのにな」…って言われたんだけど、そういうこともあったんですよね。…で、父親っていうか…うち、おじいちゃんがすごい働き者で、田んぼとか畑とかすっごい持っていたんですよ。土地も持っていて。

聞き手A : 道路の、こっち側ですよ？

M. J さん : そうです。

聞き手A : 与えられた土地って、あったじゃないですか？

M. J さん : 旧土人保護法で土地を貰ったこと？その土地以外に——すっごい自分で働いたお金で買って持っていたんだけど、父親の代になって全然、名義変更していなくて亡くなってしまったもんだから、札幌に

出てきておじいちゃん亡くなってるし、父の兄妹みんな分けて、結局。中学2年生まで家で農家やって頑張っていたものは——お金入ってきたのは微々たるもので、父の兄妹に全部持って行かれちゃった。

聞き手A : お父さんの兄妹ってことですよ？

M. J さん : そう。うちの兄の名義にしていた松の木を植えていた山も、全部勝手に売られちゃって。だから兄が農家を継がなかったから、そういう状態になったんだけども。

聞き手A : 深川から来たおばあちゃんとは、深川の話とかしたことがあります？

M. J さん : そういう話はしたことないですね。兄弟は、よくTのおばさんって言ってK4 (名) さんのおうちによく行ってたんで。家の前から、こう行ったらK4 (名) さんのおうちがすぐ近くだったんで、そのおばさんに会うと神様をお祈りするような…そういうのをやってて。

聞き手A : もう一回聞きます。K4 (名) さんて…おばさん？おばあちゃんの。

M. J さん : K4 (名) さんのおうちは、おじいちゃん…ていうかK3 (名) の兄妹になる。

聞き手A : 誰の兄妹？

M. J さん : K3 (名) さん。おばあちゃんの兄妹になる。K4 (名) さんて、石狩アイヌだよ。〇〇 (施設) にK4 (名) さんの作った船とか、獲った熊の顔とかあるよ。

聞き手A : へえ、〇〇 (施設) にあるんですか？

M. J さん : 〇〇 (施設) にある。よく可愛がってもらった。

聞き手A : K4 (名) さんが、おばあちゃんと親戚になるんだもんね？

M. J さん：おばあちゃん？

聞き手A：深川のおばあちゃん。

M. J さん：そう。

聞き手A：そのK4（名）さんも穂別にいたんですか？

M. J さん：いや、いません。

聞き手A：ずっと…樺戸ってあるでしょ？

M. J さん：どのへんですか？

聞き手A：今は月形になるのかな？（地図を見ながら）K4（名）さんの話、聞かせてください。

M. J さん：K4（名）さんは私…たまに「おじさん、おじさん」…って会ってるだけで、アイヌのことに関しては全然話したことないですね。ただ、親戚のおじさんだからっていうんで近所に住んで、「これ、持って行きなさい」とか「お菓子持って行きなさい」とか。

聞き手A：近所に住んでいたのは、札幌に来てから？

M. J さん：札幌に来てから東札幌に住んでた。その時は公園があって、こっち側に家があって、こっち側にK4（名）さんの家があったから 100mか 150mくらいしか離れてないところに住んでいたんで、兄弟がやっぱりみんな来るんで、すれ違ふと年取ったおばさんたちが家忘れちゃって「Jちゃ～ん、（K4さん）家どこだったっけ～？」…って言われて、「あそこだよあそこ～」…って教えてあげたりしたんです。

聞き手A：ふ～ん、K4（名）さんとも繋がってるんですね。

M. J さん：そうです。…で、K4（名）さんのおじいちゃんと結婚した人がY. Rさんのお母さんの姉妹が、お嫁に行っているんです。Y. Rって

M. Hさんっていう人の妹さんになる。だから、そうやって繋がりがあって親戚なんですよ。

聞き手A : じゃあ、おじいさんの話、なんか面白い話あったら聞かせて欲しいんですけど。

M. Jさん : うちのおじいちゃんは働き詰めで、帰ってきたら目に入れても痛くない孫だって膝の上に座らされているだけで…あとは働き詰めでしたね。全然アイヌのことは…あつ、あれは言ってました。働きに行くとアイヌはアイヌだけの出稼ぎだから、アイヌだけ固まって仕事をさせられて。和人は…和人の人と別々。

聞き手A : 何の仕事？

M. Jさん : やまご。あと、川だとか。

聞き手A : 辛い仕事のほうをアイヌにさせるってことですか？

M. Jさん : そうそう。それで食べ物も別々で。

聞き手A : 何か愚痴みたいなことを言っていたんですか？

M. Jさん : 農繁期が終わってしまうと出稼ぎに行くじゃないですか。

聞き手A : 札幌に行くんですか？

M. Jさん : いいえ、仕事があったら道内どこへでも行ってたから。山へ行ったり。伐った丸太を川に流すでしょ。その丸太の上に立って…あれもやってたから。そして落ちて大怪我したりとかしてて、そういう仕事ずっとやってきたから、札幌に出てくるまでは。だから昔は、別々にされて…一緒にの部屋には寝てなかった。旅館もアイヌが経営している旅館に労働者を泊めて、アイヌじゃない人は和人の経営している旅館に泊めた。だから、それ以外にご飯作る人がいるとしたら、奥さんを連れていくんですよ。だからうちの母親がよく一緒に行って、ご飯支度していた。だから、父親も母親もいないあいだ、おばあちゃんと一緒にご飯食べたりしてた。

聞き手A : 今、出稼ぎに行ったのは、Mさんですか？

M. J さん : いや違う、穂別のT家。おじいちゃんも行ったし、お父さんも行ったんだって。代々続いて…お母さんも行って。それで、両親二人とも行ってしまったから、おばあちゃんと二人でご飯を食べた。

聞き手A : おじいちゃん穂別の人で、おばあちゃん深川の人ですよ？ どうやって結婚したんですか？

M. J さん : ただの話だけで結婚したんでないかな？ 一人子どもがいて、連れ子で結婚しているから。おばあちゃんに子ども一人いたんですよ。

聞き手A : 誰かの紹介っていうこと？

M. J さん : そうですね。

聞き手A : 誰だか知っていますか？

M. J さん : わかんないです。働き者のおじいちゃんだから紹介されたのでは。

聞き手A : その連れ子さんとお父さんは、仲が良かったんですか？

M. J さん : 仲良かったです。良かったですけど、うち、要するに父親がおじいちゃんの子どもになるわけだから、連れ子のほうには、生活できる分だけのお金を持たせて独立させたんです。…で、長男のT. Mに農家を任せると言って出て行ったんですけど、それでも（たまに戻って）来て結構お金持っていったりしてたけどもね。困ると来て持ってって。

聞き手A : M. J さんはK3（名）さんが生きていた時は、まだ小さかったと思うんですけど、K3（名）さんと周りの穂別のアイヌの人たちと何か違うところとかありましたか？

M. J さん : 全然ないですね。近所はみんな親戚のアイヌだったから、T（姓）の兄弟とか従兄弟どうしだとか、そういう人が周りにいたから仲悪

いっていうことは一切ないですね。

聞き手A : なるほど。じゃあ他の地域からいっぱい嫁いで来る人がいたってことですか？ K3 (名) さん以外に。

M. J さん : そうですね。だから全然、私が知らなかったところで従姉妹どうしだってわかったのはK. Yさん。

聞き手A : えっ、K. Yさん？

M. J さん : K. Yさんは、うちの父親の従姉妹になるんですよ。戸籍謄本を取ってみたら、お前のところの名前出てきたってK. Yさんに言われて…おばさんに聞いたら従姉妹だよって。お前にしたら遠いけど、私(おばさん)にしたら従姉妹どうしなんだよって。だから、うちのおじいちゃんと兄妹だった妹が、要するにK(姓)家に嫁いだんですって。「元」Yさんだもんね。鶴川の向かい側にいたんだよね。私たちいるところの向かいに。…で、あとから平取にお父さんかお母さんが行ったけど。戸籍を取るとK5(名)さんも出てきた。K. Kさんのほうだと思っただけど。K6(姓)家も親戚になるんですよ。去年かしら…上川行ってIさんに聞いたら、こっちまで親戚になるし、阿寒にもいるしこっちにもいるし…結構すごい。それで、Aさんに言われたんですけど、「全部戸籍取って——おじいちゃんおばあちゃん全部戸籍調べて家系図作ったら、Tさんのところが一番だよ。作ったら本にしてあげる」…って言われたんです。IさんもF先生に協力してもらって、こんな大きなのにずっと書いてあって、これからまだやりたいんだって言ってたけど、あれ見たらもうねえ、自分たちで全部アイヌのルーツ調べたいと思う。面白いよお。そうやって調べていたら「K7(姓)」っていうのがうち親戚なんですよ。…で、うちの父親が、A2(姓)さんって親戚だっっていうのを話聞いてて、うちの母親と話をしてて、そしたら「K7家」はうちと親戚だから——K7家に嫁に来ている人がいるから、その人はA2(姓)さんのおばさんになる人だって。いますよね？ 穂別にお嫁に来たおばさん。

聞き手A : 穂別にお嫁に？ K7(姓)さんにお嫁に行ったおばさん？…が親戚になるの？



M. J さん：いやいや、そのおばさんがA2家のほうの姉妹。おばあちゃん、お母さんの。

聞き手A：A2(姓)のほうの姉妹は先妻の子ども、それから本妻の子ども、それから今度本妻の妹に産ませた子ども、そして本妻を出してその本妻と他の男性とのあいだに産まれた子ども…この4種類(人?)いるんですよ。穂別のほうのK7(姓)さんは、先妻の子どもになる。なんか、A2家のほうに…聞いたことあるんですよ。うちの母親の妹なんだって言ってましたよ。妹がK7(姓)に嫁に行ったんだって。K7(姓)の名前を出してT(姓)と親戚になるんですよ?…って言ったら、A2家のほうに「なんで、そんな誰も知らない話を知ってるんだ?」…って言われた。仁湾(?)のほうのK7(姓)さんじゃないかな?

M. J さん：そうです、仁湾(?)のK7(姓)さん。

聞き手A：仁湾(?)のK7(姓)さんのところにお嫁に…名前は何ていうの?

M. J さん：わかりません。

聞き手A：両親がアイヌだと、ずっとあちこちに繋がるんだよね。

M. J さん：いろいろな名前がすごい出てくるんですよ。いろんな話を聞いて、それで調べようかなと。B(名前)さんには「J、J!」…って(M. Jさんの名前を呼んで)可愛がられたから、しっかり覚えているんだけど、他のことは全然。あとでわかって、調べたらそうだったんだ…って感じだったんですけども。うちの兄がB(名)さんの最初の奥さんの子ども(Oさん)と小さいころ、一緒によく遊んだってという記憶はあるっていうから、ああそうなんだってあとから思った。

聞き手A：M. Jさんは石狩アイヌじゃないようなので、石狩アイヌの英雄はわかりませんよね。石狩アイヌの遺跡を巡ったこととかはありますか?

M. J さん：自然公園とかはありますけど…他はないですね。

聞き手A：そうですね。石狩アイヌとして、他の地域のアイヌに思うこととかもないですよね？

M. J さん：他の地域の人のことですか？ただ、とにかく自分の祖先はどうだったのかっていうのが知りたいだけで、他の人のことよりも、全部調べて——どこにどうなってT家がどうM家と一緒にってとか。私がここまで…生まれてきたところまでのを知りたいだけです。

聞き手A：T家の歴史を知りたいなって思ったきっかけって、ありますか？

M. J さん：M家の調べたんですよ。

聞き手B：うちの母が旧姓Mなんです。…で、M. J ちゃんのお母さんと姉妹なんです。だから、私とM. J ちゃんは従姉妹どうしなんです。年の離れた従姉妹どうしなんだけど、私がM家を調べれば、M. J ちゃんもわかるし、T家を調べればこっちも繋がりがわかるから調べた。

聞き手A：じゃあ、何で聞き手BさんはM家を調べようと思ったんですか？

聞き手B：うちの母がM. Mだから。

聞き手A：お母さんに調べてほしいとか言われたんですか？では、なぜ調べようと思ったんですか？きっかけは？

聞き手B：自分で調べたいと思ったから。母に聞いても何もわからないし、M. J ちゃんに聞いても話が飛んで飛んで何が何だかわからないし。

M. J さん：言ってもわからない。

聞き手B：そうそう。

M. J さん：戸籍を調べて、こうこうこうなんだよって言っても、調べなかったらわからない。

聞き手B : M. J ちゃんは、親戚のおばさんだと思ってたんですよ。

聞き手A : 従姉妹じゃなくて？

聞き手B : そうそう、従姉妹じゃなくて。だから自分の家のことは絶対に話したくなかったから、親戚になる…言いたくないのでどうだったかな？…って感じでしか話さなかったから。大人になってわかった感じ。年も離れてる分、自分の子どもみたく…母親みたくして接して育ててくれた部分もすごくあるんで、従姉妹というよりお母さんに近い感じかな。さらに、おばあちゃんとかおじいちゃんってなると、うちの母方のほうにはいなかったから、M. J ちゃんのお父さんお母さんをおじいちゃんおばあちゃんっていうふうに呼んでいて。

聞き手A : じゃあ穂別出身なんですか？

聞き手B : 母はね。

M. J さん : T 家で育ったんですよ、お母さん。

聞き手A : それで、M…旧姓M だったんですよ？お母さん。

聞き手B : アイヌだから、親がいなくなったらこっちの親戚の家…って育てられたり、あっちの親戚…って育てられたりするから、転々としながら、うちの母は結婚したお姉さんのいる T 家で育った。旦那さんに、もう少しキチンと調べて…日本の文化でも担い手不足とかそういう形になっているし、アイヌだってわかったんだったら、自分はアイヌ文化がすごく好きだから、自分の思うような形でもうちよつと頑張ってみたら…って言われた。

聞き手A : 旦那さんは、アイヌの方なんですか？

聞き手B : いいえ違います。それで M. J ちゃんにいろいろ——それから聞くようになって、働くようになってとかして、どんどんいろんな人の話聞いたりとかしていった感じ。

聞き手A : M. J さんは小さいころ、自分がアイヌだってこと、わかってたん

ですか？

M. J さん：石ぶつけられるのはなんでだろう？みんな…こっちのコタンに住んでる子どもたちだけそうされるの？…って親に言った時からですね。うちの父親はこっち側の人から見れば土地もお金も持っていたんでね。そのころはおじいちゃんが働き者だったから、親に対しては差別しない人が多かったんだけど、子どもはそういうこと（石を投げたり）してたんですね。親が言ってたからそうしたんだろうけど、そんなことして「どこの子どもだ～！！」…ってうちの父は怒ったんですけど。

聞き手A：そしたらやめました？お父さんが言ったら。

M. J さん：だから、行き帰りにそういうことをするようになってからしなくなりましたよ。

聞き手A：アイヌの子たちがやり返したりしなかったんですか？

M. J さん：ああ、しなかったです。やったって怪我するだけですし。ただ、口では言いますよ。そういうこととして良いのかって。

聞き手A：人数的には、どれくらいだったんですか？

M. J さん：近所の子ども…10人くらい連れて歩きました。

聞き手A：いじめてくる和人は、どれくらいですか？

M. J さん：5～6人いますね。

聞き手A：数では勝ってるじゃないですか？

M. J さん：勝ってるけども、石ぶつけ合いやったってしょうがないことだから、ただ「仲良くしなさい！」…って言った。私、一人で歩いているときに「ちょっと待ちなさい！！」…ってひっ捕まえて「どうして石ぶつけるの？同級生なんだから、そういうことしちゃダメでしょ！！」…って。

聞き手A :次に、現在に受け継がれるアイヌの伝統について質問します。現在、関心を持っているアイヌの伝統文化って何になりますか？

M. J さん :私、歌を覚えたいですね、歌、全然わからないから。

聞き手A :おばあちゃん…K3 (名) さんは、歌わなかったんですか？

M. J さん :なんでも隠れてやってるんで。

聞き手A :歌ってはいतんですか？メノコイチャルパの時に。

M. J さん :そういうイチャルパやってない時には、歌ってたりもしたから。わけわからない言葉使ってるから。私は横で遊んでただけだから。あと、お歯黒してた。口の中真っ黒。

聞き手A :なんでですか？

M. J さん :なんでババちゃん口の中、真っ黒なの？汚いねえって言った覚えはあるんですけど、お歯黒してました。お歯黒って本州のほうの風習だよ。

聞き手A :入れ墨できないから、せめても…ってことですかね？

M. J さん :よくわからない…調べてみたいね、どうしてなのか…。

聞き手A :あとは、おばあちゃんとかがやっていたのをやりたい？

M. J さん :アイヌの歌をやりたい。自分のルーツのあるところのものをやりたい。古いものを覚えたい。

聞き手A :今、積極的に何か (の団体) に入ってやっているとかはないんですか？

M. J さん :積極的にやっているっていうのはないですけど、踊りは〇〇 (団体名) のメンバーとしてやっています。刺繍とかもやっているけど、

気持ちが落ち込んだり誰にも会いたくないとか、家から出たくないうってというのがすごいあったんですよ。それをわかっているから、聞き手Bさんは私を引っ張り出して。外にも出たくない、人と会話するのも嫌だったんですよ。そういう状態の時に「行くよ、ほら！！」…って言われて連れ出してもらって。…だから、歌を覚えたい。歌えるかどうかはわからないし、アレンジしたものじゃなく、そのままを覚えたい。

聞き手A : 自分の日常の中に、アイヌ文化って入っているな…って思うことってありますか？

M. J さん : 息子が毛深いから「どうしてこんななの？」…って中学ぐらいの時——友達に「お前、熊だな」…って言われたんですよ。だから、そういうふうと言われたって聞いたときに、ああ、やっぱりアイヌだから息子にこういうふうに出たんだなって。それから、「なんで僕だけこんななんだ」…って言われて「アイヌだよ」って言ったらすごい嫌って、一回だけピリカコタンに連れて行ったんだけど、それ以降は「行こう」…って言っても「嫌だ行かない」…って。娘は全然気にしてないんですけどね。ボーイフレンドができたら「私、アイヌだけど良い？」…って先に言っちゃうんですよ。それでも良いんだったら付き合うんです。

聞き手A : 息子さん何歳なんですか？

M. J さん : ○○歳（20歳台前半）です。

聞き手A : 娘さんは？

M. J さん : ○○歳（30歳代半ば）です。

聞き手A : そういうところでアイヌだなんて感じなんですか。

M. J さん : 近所で噂になっているらしくて、中学生の女の子が奥のほうに住んでいるんだけど、よくすれ違くと「おはようございます」「こんにちは」…って挨拶してくれるのね。ああ良い子だなあ、ちゃんと挨拶できる子なんだなあと思っていたときに、1か月くらい前に親と一緒に

に歩いて帰ってきて、その時もお互いに「こんにちは」って挨拶したら、母親が「なんでアイヌと挨拶なんかするの、あんた」…って言ったら娘さんが「お母さん何それ？それ、差別じゃない？おんなじ人間でしょ？あの人に何か悪いことされたの、私たち。お母さんの言ってることのほうが間違ってるよ」…って言い返してた。わ～、この子すごい！！…って思った。私、結構そういうの多いんですよ、近所に言われたりとか。住んでる家の大家さんが言ってるんだと思うんですけど…だから近所に広がったんだと思うんですけど。娘に気にすることじゃないって言うんだけど、ああ、やっぱり嫌ってる人はいるんだなあって。

聞き手A : 言い返しましたか？

M. J さん : いいえ、黙ってました。娘さんがそう言ってくれたので、言う必要がないなと思って。

聞き手A : ポジティブな話がありますか？

M. J さん : 自分がわかっていることは教えるし。だって、私が亡くなったらわからなくなっちゃうし、私が知っていることは娘にも話しているんですけど「え～、頭が混乱してきた。わかんない」…って言ったりするんですけど、だけど知ってることは娘に言って。

聞き手A : 娘さんに、どんなことを話しているんですか？

M. J さん : 今、言った話とか。ここは親戚でこうなんだよ…覚えておきなさいよって。あっちは親戚で、こっちはこうなんだよ…覚えておきなさいよ…って。おばあちゃんがやっていたことなんかを母親に聞いたから「そうだよ」…って。だから、おばあちゃんのいろんなことを私が母によく教えてもらったり。父親は、全然そういう話はしない。ただ、たまにアイヌ語をしゃべったりして。お酒入ると…またアイヌ語しゃべってる。そのころ、私アイヌのことが嫌い…嫌だったんですよ。母親が着物やバッグを作ったりしていたけどそれも嫌で、そういうのもやってほしくなかった。中学2年生くらいから高校卒業するまで、あと結婚してからも嫌だったし、一切、そういう話も旦那さんにもしなかったし…それを理解できるようになったのが、

ここ何年かで…。母親がやっていたことを理解できた。

聞き手A : 刺繍はどこで覚えたんですか？

M. J さん : 母は、職業訓練校の一期生で習った。

聞き手A : 最後にアイヌ料理って作りますか？どんなものを作りますか？

M. J さん : 作ります。儀式で使うもの。オハウ (汁物)、ラタシケプ (和え物)、シト (団子) …あとなんだろ…。

聞き手A : 得意なオハウは？

M. J さん : 鮭、大根、にんじん、イモ…かな。あとは、山菜や木の実、枝なんかを取りに行くのが好きだった。

聞き手A : 一番好きなアイヌ料理は何ですか？

M. J さん : オハウ…かな。